

2020年度 活動報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

■2020年度を振り返って

2020年度は第6期中期計画（2019年度～2021年度）の2年目でした。中期目標は次の通りです。

- (A) 誰もが「ここに住みたい」と思えるような、地域の居場所、地域の出会いの場、活動を活性化させる場をつくりあげる。
- (B) 中間支援組織として、これまで培った成果をまとめ、今後の活動に活かす。
- (C) 子育てしやすい社会に向け、子どもをめぐる地域のつながりの促進に寄与する。

メサ・グランデにおける地域活動支援センターは、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言下でも、利用者の方々やその家族の生活を継続する観点から、事業の継続的な実施が求められてきました。感染防止対策を実施しながら地道に活動を続けてきましたが、自主的に外出を自粛したり、通所習慣が乱れてしまったりした利用者などもいて、年間の実利用平均人数は3.5名に減少しました。一方で、自立を目指し、就労に結び付けた利用者を1名輩出することができ、月1回面接を行うなどして、長期的に就労を継続できるよう、サポートしながら見守っている段階です。利用者の作業の拡大と工賃アップを目指し、1月から印刷会社とのコラボによる端材を活用したマスクケースづくりと販売、販路拡大に着手しました。

制度面では、2023年春に国の個別給付事業である「就労継続支援B型事業所」に移行することを決断し、川崎市に移行計画書を提出しました。メサ・グランデとしてどのような支援やサービスを提供するかイメージを膨らませるため、東京都や横浜市にあるカフェ併設型のB型事業所を3か所見学し、スタッフで方向性を検討しながら具体的な計画案に落とし込んでいきました。

さらに職員の支援力を強化するため、スタッフ1名の精神保健福祉士資格取得に向けた準備を始めました。

「遊友ひろば」は、登戸区画整理事業の進展を見極めながら、ボランティアによる運営委員会体制で事業を継続できました。新型コロナウイルスの影響で健康麻雀などができない時期が続き、レンタル利用も減少しました。見通しが立たない中、一時は賃貸契約の更新を断念することも考えましたが、会員・利用者の皆さまの継続的なご利用と貴重なご寄付、国の持続化給付金、神奈川県新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金に支えられて、収入が途絶えた時期もなんとか事業を継続でき、家主の配慮もあって、遅ればせながら賃貸契約も更新することができました。

◆2020年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2019年度末	75名	8団体	11名	94名
2020年度末	68名	7団体	11名	86名

※個人会員の脱退が6名、賛助会員の脱退2名、正会員個人から賛助会員への変更が1名、正会員団体から賛助会員への変更が1団体でした。

■2020年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)）

収益：0円（予算：0円）・費用：0円（予算：0円）

（担当理事：江田）

①さまざまなグループへの参加と応援

これまで同様、市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援しました。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「公益財団法人かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（前田）
- ・「三田まちもりカフェ」事務局として参加（町田）
- ・「まなてら運営委員会」（池上）

②他団体に団体会員としての参加

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行いました。

「NPO法人フリースペースたまりば」、「NPO法人ワーカーズコレクティブ協会」、「NPO法人アクションポート横浜」、「NPO法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」、「NPO法人たすけあい多摩」、「川崎商工会議所」、「新城南口商店会」、「登戸東通商店会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力しました。

「公益財団法人かわさき市民しきん」

○また、次の団体に協力団体として参加しました。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

■成果/課題：

ぐらすかわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体（「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」「教育に憲法を生かす川崎市民の会」）や、ぐらすかわさきの活動から別組織化した団体（「地域通貨たま運営委員会」「公益財団法人かわさき市民しきん」「三田まちもりカフェ」「まなてら運営委員会」）など、ぐらすかわさきのミッションに合う活動グループへの参加を通して、連携・ネットワークの強化を図りました。

ただし、これまでのその実態は、担当者がその活動に参加しているということで、その活動をぐらすかわさき全体で共有するところまではいきませんでした。一部の団体はぐらすレターに寄稿することで情報提供をすることができました。

(2) 障がい者を支援する事業の企画・実施（定款第5条(4)）

収益：22,097,830円（予算：19,370,000円）・費用：17,690,244円（予算：17,786,909円）

地域活動支援センター メサ・グランデ事業

（担当理事：小林・伊丹、スタッフ：前田瑞穂・前田知花・和出・伊藤）

地域活動支援センターは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う緊急事態宣言の発令下でも、利用

者の方々やその家族の生活を継続する観点から、事業の継続的な実施が求められ、感染防止対策を施しながら休むことなく地道に活動を続けてきました。自主的に外出を自粛をした方や通所習慣が乱れてしまった方などもいて、年間の実利用平均利用者数は3.5名（前年5.6名）に減少しました。

そのような状況下でも、自立を目指して就労に結び付けた利用者を1名輩出することができました。月1回面接を行うなどして、長期的に就労を継続できるようサポートしながら見守っています。個々の利用者に寄り添った対応に努めたことで、一人一人との関係性が深まり、信頼関係が構築され、利用者の成長につなげることができました。

また、川崎駅前にある印刷会社との協働で、印刷端材を活用したマスクケース制作と販売を始めました。印刷会社としては社会貢献・環境保護・障がい者支援の推進に、メサ・グランデとしては利用者の生産性と工賃のアップにつながります。今後はマスクの販路拡大を図ります。

制度面では、2023年春に国の個別給付事業である「就労継続支援B型事業所」に移行することを決断し、川崎市に移行計画書を提出しました。メサ・グランデとしてどのような支援やサービスを提供するかイメージを膨らませるため、東京都や横浜市にあるカフェ併設型のB型事業所を計3か所見学し、スタッフで方向性を検討しながら具体的な計画案に落とし込んでいきました。また、職員の支援力強化のため、スタッフ1名の精神保健福祉士資格取得に向けた準備を始めました。

カフェの運営においては、新型コロナウイルス感染症の蔓延による生活様式の変遷が、売上を大幅に低下させました。定期的に行っていた企業への弁当配達は無期限休止となり、店内飲食を利用するお客様も減りました。スタッフの勤務を1日平均1名減らして人件費を削減したり、持続化給付金や中小企業小規模企業感染対策事業費補助金などの助成金・補助金を活用することにより、店内の感染予防対策を講じながら、運営を維持してきました。減少した売り上げを支えるため、弁当販売に注力しました。テイクアウト用メニューを店頭に置いたり、地域の持ち帰り店掲載サイトに掲載してもらったりしたことで、徐々に認知度が上がっています。

前回のメニューリニューアルから2年経過したため、お客様満足度アンケートを実施したところ、料理の味やスタッフの対応、店内の雰囲気などで、予想を超えての高評価を受けました。お客様の要望を取り入れ、お魚メニューの曜日を設けたり、お子様メニューの中身を変えたりと改善に取り組みました。また、勤務削減により、料理や作業工程の見直しを行った結果、思わぬ形で効率化も図られました。

2021年度からのHACCAP（＝ハサップ、製品の安全性を確保する衛生手法）を取り入れた衛生管理の義務化のための準備を進めました。

広報面では、カフェの新ホームページの内容充実、外部グルメレビューサイト「食べログ」での情報発信、ブログやFacebook、InstagramなどのSNS発信を積極的に行い、集客に努めました。新ホームページには地域活動支援センターについてのページも組み込みました。

「ビーバーリンク@武蔵新城」や地域食堂「めさみーる+（プラス）」は、緊急事態宣言の発令状況に合わせながら継続開催しました。コロナ対策の助成金を受給したほか、ライオンズクラブや近隣歯科医院からの寄付、川崎市在住弁護士を中心とした実行員会が主催した講座のチャリティや個人の方の寄付などで、多くの協力をいただくことができました。

企業・市役所の職員研修は中止が相次ぎましたが、NPO法人アクションポート横浜がコーディネートする大学生インターンシップや、近隣の支援学校からの職場体験研修などを受け入れました。

○主な利用実績

- ・地域活動支援センター 年間開所日数：238日、延べ利用者数：3.5人
- ・めさみーる+ 年間開催日数：12回、延べ参加者数：267人、
延べボランティア人数：91人（店内飲食を制限し、持ち帰り中心で開催）

■成果/課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動支援センターの平均実利用利用者が大幅低下したことで一時は存続も懸念されましたが、川崎市の指針により、原則として令和元年度の実績における実利用人員をもって運営基準を算定することになり、次年度も継続して受託できることになりました。

今年度の成果として、利用者を就労につなげられたことは、自立支援ができたことと評価できます。ほかにも、作業への満足感を得はじめた成長を遂げている光景が増えてきていることから、今後も継続的に個別に合わせた支援を実施していく必要があると考えます。

就労継続B型事業所への移行について、メサ・グランデとしての運営方法をスタッフの中でイメージ化できたことは、諸々の準備を展開するうえでの出発地点に立つことができたと言えます。今後は、利用者の作業時間を確保し、工賃支払い目標を達成できるような工夫と対策をたてる必要があります。同時に、テイクアウト弁当や総菜に力を入れ、新規顧客の獲得とリピーターの定着を図るために顧客満足度を高める販促方法に改善努力が必要と考えます。カフェのホームページ、情報グルメサイト「食ベログ」への掲載など、その他 SNS を駆使した広報と集客は、次年度も引き続き積極的に取り組みます。

「ビーバーリンク@武蔵新城」や地域食堂「めさみーる+」の継続は、地域のつながりが薄くなっている現在の社会に必要とされている活動です。寄付や食材の提供など、多くの協力をいただくことができ、協力の輪が広がっていることが実感できました。

就労継続B型事業への移行への準備と安定した収入源の確保が喫緊の課題となります。

(3) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(5))

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業/上記(4)の通り

②遊友ひろば事業

収益：4,336,040円(予算：3,112,000円)・費用：3,019,126円(予算：3,015,000円)

(担当理事：池上・町田)

幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化するため、ひろば運営に関心のある有志ボランティアで運営委員会を設け、以下のような事業を行いました。

○地域住民等への活動場所の提供

(担当ボランティア：池上・秋山 他)

新型コロナウイルスの影響で、活動を自粛した団体がいくつかありましたが、緊急事態宣言中でも地道に活動を継続した団体もあり、感染症対策を講じつつ、活動場所提供のニーズにこたえることができました。たとえ参加者が少なくても、少しでも遊友ひろばを支えようという思いで借りてくださる方も少なくなかったと思われまます。この場を借りて御礼申し上げます。

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円(地域通貨たまを200たままで使用可)。

新規利用者が2時間以上利用する場合は、初回1時間無料。

- ・荷物保管用引出し等…1カ月500円
- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス…1カ月300円
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供(地域の市民活動・行政等の情報)

○健康麻雀

(担当ボランティア：瀬川・町田 他)

主に年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促

進を図るためのプログラムです。「川崎市住民主体による要支援者等支援事業」としての業務委託が始まり、要支援など条件に合う方が参加する際のタクシー代を負担できるようになり、対象は5名でした。緊急事態宣言中は集うことができませんでしたが、電話で参加者の近況や心配事をヒアリングするなど、できる範囲でコミュニケーションを図りました。また、人数が足りないときに参加してくれる新たなボランティアスタッフも加わりました。

・初級者サロン…火曜 13時～17時、1回 1,200円（地域通貨たまを500たままで使用可）

和気あいあいと楽しく、いつも笑いが絶えません。「生きがい」と感じている方もいます。介護やご本人の病気などでお休みされる方も増え、新型コロナウイルス感染症対策で、2020年3月から休止、再開を繰り返さざるを得ない状態でした。休止期間中には、利用される方からは「早くまた麻雀をやりたい」とのお声を多くいただき励まされました。

・健康麻雀サロン…金曜 10時～15時、1回 1,500円。（地域通貨たまを500たままで使用可）

勝負にこだわりながらも楽しくやってきましたが、コロナの影響で5名の方が長期お休みをしています。火曜日と同様、マスク・消毒・卓上のビニルでのシールドなどで感染防止に努めました。

また、参加者定員を2卓8人に絞り、玄関のガラス戸もオープンにして、換気にも注意しました。

○土井さんのオーガニック料理教室

（担当ボランティア：町田・宮下、講師：土井由美子さん…ぐらす・かわさき会員）

季節料理、行事をとりいれつつ「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べる（身土不二）」を基本とし、体調に合わせた料理をつくるコツを学ぶプログラムです。20～60代と幅広い世代が参加しています。コロナの関係で、今年度は1度も行うことができませんでした。グループラインで、料理情報を教えあったりや近況報告を行っています。

・利用料：1回 2,500円（地域通貨たまを100たままで使用可）

○放課後ひろば（食事付き寺子屋）

（担当ボランティア：講師…川口・高崎・永井…地域のボランティア、調理…多摩区食生活改善推進員連絡協議会（ヘルスメイト）大塚、地域のボランティア前田・町田・大澤・江田）

小学生から中学生に学びの楽しさを伝え、学習できる居場所を提供するプログラムです。2016年から「川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業補助金」を受けて実施している「軽食サービス」は、地域のボランティアさんを中心に毎回飽きないように配慮されたメニューとなっています。コロナで4月からお休みしましたが、要望が強いため6月からコロナ感染予防を強化し、机の配置を工夫して休まず続けました。食事時間は、学校の様子などで盛り上がったものですが、今年度は黙食を貫き少し味気ないです。新しい英語の先生が中学生を見てくださっています。生徒が3人になってしまったので宣伝を強化していきたいと思います。

・開催日：月曜日、教科：算数・数学・英語、利用料：1時間 500円

○主な利用実績

- ・初級者サロン 実施回数：25回、参加者延べ：150人（1回平均6人）
- ・健康麻雀サロン 実施回数：25回、参加人数延べ：181人（1回平均7.2人）
- ・オーガニック料理教室 実施回数：0回、参加人数延べ：0人
- ・放課後ひろば 実施回数：41日、参加人数延べ：149人（1回平均3.6名）

■成果/課題

緊急事態宣言を受けて事業収入が大きく低迷する中、会員・利用者の皆さまの継続的なご利用と貴重なご寄付、持続化給付金、県の協力金、放課後ひろば事業の補助金、健康麻雀の委託金に支えられ

て、収入が途絶えた時期もなんとか事業を継続でき、事業としては黒字で終えることができました。運営にあたるボランティアスタッフは生業を抱えている者も多く、それぞれ少しずつ時間を割いて遊友ひろばの運営に携わっているため、マンパワー不足が恒常的な課題となっています。

(4) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供 (定款第5条(7))

収益：1,500 円(予算：50,000 円)・費用：234,036 円 (予算：169,000 円)

(担当理事：田代・薬袋、担当スタッフ：宮田)

① 広報

ぐらすレターは 6 月 (総会報告、コロナ禍での活動報告など)、9 月 (20 周年に向けたこれまでの事業のまとめ、B 型事業所へ向けての視察などの準備状況など)、12 月 (遊友ひろば賃貸借更新の報告、地域食堂への協力金受領報告など)、3 月 (20 周年を迎えたぐらすへのご意見のお願い、企業との連携やひろば利用者メッセージ、総会のお知らせなど) の年 4 回発行しました。会員などからの投稿も各回掲載し、会員や関係者に情報を提供しました。一回当たりの発行数は郵送 172 件 (前年 178 件)、メーリングリスト配信 59 件 (前年 62 件) の合計 231 件 (前年 240 件) でした。

メサ・グランデはホームページ、ブログ、フェイスブックページなどの SNS を活用し、情報発信に積極的に取り組みました。また積極的に取材を受け入れ、縁結び大学でのカフェ紹介、東京新聞での子ども食堂への支援に関する記事などを掲載してもらいました。

ぐらすかわさき全体のホームページは、21 年 5 月のリニューアルを目指し、現在のページの情報を整理しながら新しいページの制作作業を行ないました。

② 設立 20 周年記念誌の発行

2021 年 1 月にぐらすかわさき設立 20 周年を迎えたことを記念し、日本女子大学家政学部住居学科薬袋研究室の協力を得て、これまでの活動を振り返る記念誌の発行準備を進めました。

③ 講座開催・講師派遣

今年度は実施しませんでした。

④ 行政などに関わる委員会への参加

国分寺市協働事業審査会 (田代) (5/26、8/25、10/2、11/17)

かわさき市民公益活動助成金審査委員会 (池上) (5/17、2/8、3/15)

多摩区こども総合支援連携会議 (町田) 今年度は会議の開催がありませんでした。